

2026 年 1 月 8 日
NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社
Cuebus 株式会社

N X グループと Cuebus、二階層ロボット倉庫システム 「CUEBUS 75L モデル」の実証実験を開始 ～上方空間を活用し、物流センターの生産性を最大化～

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社（代表取締役社長：堀切智）を持株会社とする N X グループと Cuebus 株式会社（代表取締役社長：大久保 勝広、以下「Cuebus」）は連携し、日本通運株式会社（代表取締役社長：竹添進二郎）の仙台卸町物流センターにおいて、Cuebus が提供する二階層構造を採用した次世代ロボット倉庫システム「CUEBUS 75L モデル」の実証を、2025 年 12 月 19 日より開始しました。



二階層構造 CUEBUS 75L モデル

【導入の背景と目的】

日本通運の仙台卸町物流センターでは、EC 市場の拡大に伴い多品種・小口配送への対応力が求められる中、仕分け作業の工程削減による業務効率化が喫緊の課題となっていました。特に、同センターはプロ野球・東北楽天ゴールデンイーグルスの EC 向け商品を取り扱っており、シーズン中の注文増加に

も柔軟かつスピーディに対応できる体制の構築が不可欠です。こうした背景のもと、リニアモータで高速・高精度に稼働し、保管効率と作業効率を両立する次世代ロボット倉庫「CUEBUS 75L モデル」の導入検証を実施します。

本件は、NIPPON EXPRESS ホールディングスが推進する DX 支援プロジェクトの一環として採用されたものであり、日本通運、日通 NEC ロジスティクス、NX・NP ロジスティクスなど、NX グループを横断した導入に向けて、効果検証を行います。

【CUEBUS 75L モデルの特徴】

今回実証実験を行うシステムは、リニアモータ式ロボット倉庫として多階層（二階層）構造を実現した最新モデルです。上方空間を最大限に活用し、従来以上のスペース効率を確保しながら、すべての保管物を即座に移動することにより、高い収納率と取り出し効率を同時に実現します。

また、多階層構造でありながら従来モデルと同様にモジュール構造を採用しており、保管容量や作業動線の変更にも柔軟に対応できます。物流量の変動や季節イベントに応じてレイアウトを最適化でき、センター運営の安定化が期待されます。

【検証内容】

今回の実証導入では、以下の項目について効果を検証します。

- 通路不要構造による保管スペース有効活用の検証
- 上方空間活用による高密度・高効率なストレージ運用の検証
- 作業時間・移動距離、作業負荷の軽減度など、ピッキング工程の効率化検証
- モジュール構造を活用した、レイアウト変更や増設の検証

【今後の展開】

実証結果に基づき、本格導入や仙台卸町物流センター内でのシステム増設、NX グループの他センターへの横展開を計画します。CUEBUS の機能性・拡張性と NX グループのノウハウを融合し、中長期的な物流効率化とサービス品質の向上に取り組んでまいります。

【NX グループについて】

NX グループは、1937 年の創立以来、モノを運ぶことを通じて人・企業・地域を結び、社会の発展と共に歩んでまいりました。世界 57 の国と地域に約 78,000 人の従業員を有するグローバルロジスティクスカンパニーとして、陸・海・空の輸送モードと倉庫・IT を駆使し、高品質なロジスティクスサービスを提供しています。

【Cuebus 株式会社について】

“加速する時間に応える”をミッションに、全方位に走行可能な独自開発リニアモータをコア技術とする世界唯一の都市型立体ロボット倉庫「CUEBUS」を開発・提供しています。「①超収納効率」「②超スループット」「③超柔軟性」という 3 つの特長を備え、物流現場の生産性向上や空間利用の最適化など、業界が抱える課題を解決に導きます。